

こんなところにウチナンチュ!?

目的：海外で働く可能性を身近に感じさせる。

対象：小学校高学年～中学生

時間：50分

準備するもの：ラオス青年海外協力隊員のインタビューシート、写真、インタビュー映像

学習の流れ

| 時間(分) | 学習者の活動 | 進め方とポイント |
|---------------|---|---|
| 導入 (5 分) | <p>①将来の夢について話す。</p> <p>◎海外で働きたいかという問いに答える。 その後、自由にやりとりを行う。</p> | ○子どもたちが発言しやすいように、「どんな職業につきたいか」を問いかけると良い。 |
| 展開 (40 分) | <p>②4人1組のグループをつくる。 青年海外協力隊員のインタビューシート4枚もらい、1人1枚ずつ読み上げる。どんな取り組みを行っているのか紹介し合う。</p> <p>ラオス青年海外協力隊員のインタビューシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿部貴弘さん(サッカー隊員) ・新井貴久さん(バレーボール隊員) ・森治彦さん(コミュニティ開発) ・萩原聖子さん(観光) ・野田結香さん(教育) <p>③ラオス在住で沖縄県出身者の紹介をきく。</p> <p>【内容】</p> <p>(1)Japan Mine Action Service (認定特定非営利活動法人 日本地雷処理を支援する会)で活動する宇良一成さん。</p> <p>(2)チャーがんじゅー学校保健歯科プロジェクトに参加する神田恭子さん。</p> <p>(3)Association for Aid and Relief,Japan (特定非営利活動法人 難民を助ける会)に所属する大城洋作さん。</p> | <p>○5人のグループでも良い。 この場合は、青年海外協力隊員のインタビューシート5枚使用する。</p> <p>○写真で取り組みの紹介をする。</p> <p>○写真で取り組みの紹介をする。</p> <p>○写真で取り組みの紹介をする。</p> |
| まとめ (10分) | <p>「海外で働いてみたいか」という質問に再度、答える。 感想を書いて、発表する。</p> | ○感想用紙は、どのような形でもよい。 |

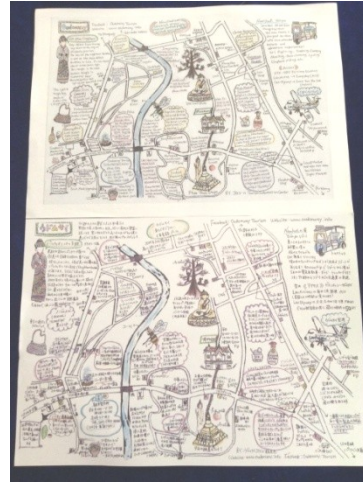
学習後の展開:

- ・自分の将来の職業について考えるきっかけとする。
- ・海外で働く日本人を紹介することで国際協力の必要性を考えるきっかけとする。



萩原聖子さん

(ウドゥムサイ県情報文化観光局所属)



聖子さんが作成した手描き MAP

○現在の活動内容

ラオスのウドゥムサイ県にて、観光開発の手伝いをしている。例えば、ウドゥムサイ県は、観光名所になるような洞窟や滝であったり、温泉であったりと、いろいろな名所があるが、なかなかその名所を世界にアピールできていない。そのため、宣伝活動の手伝いをしている。

○青年海外協力隊に参加しようと思ったきっかけ

出身高校が国際科であり、その時から青年海外協力隊員の活動のことを知っていた。その当時から青年海外協力隊の活動に興味があり、応募したのがきっかけである。

○日本の子ども達へのメッセージ

みなさんが海外をどのように思うかはわからないが、危険であったり、なかなか海外に一步踏み出すのが怖いなど思ったりする人もいますかと思いますが、また、語学が苦手だなど感じる人もいますかと思いますが、世の中には、私たち日本人とは違う生活を送る人たちがたくさんいます。その生活を見ることだけでも刺激を受けることができるし、英語が話せなくても笑顔で会話をすることもできます。ぜひ、踏み出すという勇気を持つことを怖がらないで一步踏み出してみてください。新しい世界が広がっています。



森治彦さん

(ウドゥムサイ県スポーツ局所属：バレーボール隊員)

○現在の活動内容

バレーボールをラオスの子どもたちに指導している。その中でも大事にしていることは、バレーボールをしている人数を増やすこと「普及」、そしてバレーボールのレベルを上げるための「振興」、この2つを主な活動の軸として働いている。

○青年海外協力隊に参加しようと思ったきっかけ

私の姉が青年海外協力隊員にアフリカ、ガーナで活動していた。そして、大学生のときに姉を訪れて、現地の人のために活動する姿、現地の人々と本気のやりとりを見て、自分も姉のように活動したいと思い、応募した。

○日本の子ども達へのメッセージ

海外へ行くきっかけを探すのは難しいと思うし、海外へ行く決断も必要だし、親に反対されたり、海外での生活が不安であったりすると思う。しかし、私たちのように海外の経験をしている人の活動する姿、話をきく機会があれば、自分がどうすればよいか、何をすればいいかが見えてくると思う。



新井貴久さん
(ウドゥムサイ県産業商業局にて)



各村で作った物を販売する場所

○現在の活動内容

現地の方々の生活のレベルが上がるように、その方々の収入源が向上できるような活動を行っている。具体的には、現地の方々が作ったバックを販売することによって、その方々の収入につながるような活動を行っている。

○青年海外協力隊に参加しようと思ったきっかけ

青年海外協力隊員になる前は銀行で働いていた。そのときは4年間、日本国内の業務に携わっていた。そのときに自分のスキルや知識といったものを途上国の人々に役立てたいと思い、青年海外協力隊に応募しようと思った。

○日本の子ども達へのメッセージ

日本にいるみなさんは、いろんな情報やいろいろな機会があると思います。だから、ちょっとした夢を叶えることは、頑張ればこちらの子どもたちよりも夢を実現することができる機会が多くあると思います。なので、ほしいもの、なりたい夢があれば、その願いが叶うように頑張ってください。



野田結香さん

(ルアンパバーン県子ども文化センター所属)



子ども文化センターの様子

○現在の活動内容

ラオスは日本とは違い、体育、音楽、美術、技術といった教科がない。その授業の変わりをする施設として、子ども文化センターがある。その施設で、子ども達に、技能4教科に代わるようなことを一緒にしたり、日本語を教えたり、ゲームをしたり、絵を描かせたりしている。

○青年海外協力隊に参加しようと思ったきっかけ

私が、15歳くらいで、9.11のテロが起きたときに、受験とか、勉強に追われており、嫌だなど思っている時期があった。そのときの9.11の映像を見て、今の自分の住んでいる世界の狭さを感じた。毎日学校へ行って、部活へ行って、塾に行って、家に帰ってのくり返し。周りを見ると、いたずらする子もいたり、勉強、勉強と言われたり、嫌だと思った。そのような状況のときに、もっと世界を知りたい、世界を舞台に働けたらいいなと思い、海外へ出ることを意識し始めた。そして、その後は、大学へ進学し、ボランティア活動に参加し、社会人として社会経験を積み、青年海外協力隊員となった。

○日本の子ども達へのメッセージ

今、あなたが日本にいて、「私は、日本人だ」と自信を持って言える人は何人くらいいるのだろうかと思う。なぜなら、日本にいと、「自分は日本人だ」と認識をあまり持たない。しかし、日本ではない国、世界にいと、いろいろな人との出会いの中で、「日本っていい国だね」と言われる機会が多い。日本にいとそれは絶対に思わないし、胸をはって、「私は日本人だ」となかなか言う機会もあまりない。外から日本を見ると、日本ってすごく素晴らしい国、楽しい国、平和な国だととても感じる。ぜひ、旅行でも、仕事のための出張でも、テレビ番組を見て感じたりでもいいので、「自分は日本人だ」と自信を持って言える瞬間を持てるように、これからいろいろな経験して欲しい。

こんなところにウチナンチュ！？活動紹介写真一覧



宇良一成さん。
元自衛隊員で沖縄県出身。
Japan Mine Action Service（認定特定非営利活動法人 日本地雷処理を支援する会）で活動する。
自衛隊で培った技術を活かすために、ラオスに来た。



ラオスには、ベトナム戦争時のクラスター爆弾や、地雷が爆発せずにまだ数多く残っている。宇良さんは、現地の人々に不発弾の撤去方法を教えている。



神田恭子さん。
琉球大学の医学部のプロジェクトでラオス在住。
チャーがんじゅー学校・地域歯科保健プロジェクトに携わる。



ラオスの学校で、子どもたちに歯磨きの方法や手洗いなど、保健衛生に関わることを教えている。



大城洋作さん。
Association for Aid and Relief,Japan（特定非営利活動法人 難民を助ける会）所属。
障がい者スポーツを推進する活動を行っている。



大城さんが所属する難民を助ける会では、2000年から車いす工場の支援をしている。2015年6月より車いすバスケットボールの普及活動を開始した。大城さんは自身のバスケットボールの経験を活かし、指導にあたっている。